

日本茶・宇治茶の世界遺産にかかる提案コンセプト再検討の骨子（案）

①資産名称

日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」

Home of Japanese Tea, “Landscape of the Production of Uji Tea“

②要旨

日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」は、中世以来、発展・継続してきた日本茶の生産により形成され、育まれてきた文化的景観であり、この地で誕生した抹茶、煎茶、玉露の栽培法と製法の伝統と革新の歴史を最も良く表しており、現在も最高品質の日本茶の生産を通じて日本独自の文化である「茶の湯」を支えている。日本茶とそれに関わる伝統的文化を語り、将来に伝えていく上で、他に例を見ない重要な遺産であり、顕著な普遍的価値を有している。

日本茶の発展は、宇治茶を源流として全国へと大きく広がり現在に至っている。宇治を中心とした京都府南部地域においては、政治文化の中心地である京都の近郊という立地特性や茶の栽培に適した自然条件を背景に、中国から導入された伝統的なお茶をもとにしつつも、日本独自の栽培法と製法を産み出し、世界に類のない覆下茶園や、地形を活かした「山なり開墾」といわれるこの地域独自の茶畑景観を形成し、伝統をベースに革新を繰り返しながら、現代の日本茶を代表する抹茶、煎茶、玉露の喫茶文化の発展を支えてきた。

また、宇治茶は、大名などの嗜好に合わせた茶の製造を行うため、加工技術においても創意工夫がされ、茶の湯や煎茶道といった茶文化を支え、育みながら、将軍や大名、江戸商人と結びついて発展し、陶磁器、漆器、呉服、和菓子、懐石料理などの関連する文化や産業の成長も育んだ。こうした茶農家や茶商が研鑽を積み重ねてきた製茶技術は、日本の喫茶文化に大きな影響を与え、現在に至るまで日本茶の質的向上に大きく貢献し、宇治茶の名を確固たるものにした。

さらに、宇治茶は中世以来、日本茶のトップブランドとしての評価を受け、国内外へ市場開拓しながら、一方で、日本の一般家庭に生活文化としてのお茶の普及・定着にも寄与してきた。

●宇治茶の顕著な普遍的価値

中国から導入された茶の生産を基にしつつ、独自の製茶技術に発展させ、日本や世界の喫茶文化に大きな影響を与えたこと。（日本茶の歴史と文化をつくってきたこと。）

- ・日本を代表する文化である「茶の湯」を支え、育んできたこと。
- ・急須でお茶を淹れる煎茶は「日本の日常生活に根付いた暮らしの中の喫茶文化」として発展してきたこと。

③ 構成資産候補

○「茶園と集落の文化的景観」を基本として、

①覆下栽培の茶園と集落景観

②露地栽培の茶園と集落景観 を、一次生産・加工の二本柱とする。

○さらに、宇治茶の特徴である「合組（ブレンド技術）」を2次加工の生産という概念に入れ、これにかか

③茶師・茶商の屋敷群を宇治茶生産の景観とする。

④ 評価基準

(iii)	<p>現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも希有な存在）である。</p>	<p>日本茶の発展は、中国から導入された茶の生産を基にしつつ、試行錯誤を繰り返すことによって独自の栽培・製法・加工技術を発展させ、茶道を支え、育んだ。</p> <p><u>「宇治茶生産の景観」は、現代の日本茶を代表する抹茶、煎茶、玉露という常に新しい茶の栽培・製法・加工技術を全て語る上で不可欠な物証を継承している。</u></p>
(v)	<p>あるひとつの文化（または複数の文化）を特徴づけるような伝統的居住形態若しくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本である。又は、人類と環境との相互作用・ふれあいを代表する顕著な見本である（特に不可逆的な変化によりその存続が危ぶまれているもの）</p>	<p>抹茶や玉露を生み出す茶園全体を遮光する覆下栽培や青製前茶法による煎茶の普及に伴う茶園拡大は、平地のみならず、山間部や河川敷にも広がり、地形に応じた「山なり開墾」といわれる独特な土地利用景観も現出させた。特に、葦簀や稲わらを用いた伝統的覆下茶園（本覆茶園）の景観は非常に貴重なものである。</p> <p><u>「宇治茶生産の景観」は、現代の日本茶を代表する抹茶、煎茶、玉露という良質な茶の生産を支える茶の栽培技術をまとまって捉えることができる顕著な事例である。</u></p>
(vi)	<p>顕著な普遍的価値を有する出来事(行事)、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある（この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい）。</p>	<p>日本が世界に類を見ることのせきない茶の湯や煎茶道といった茶道は、宇治茶の生産があつて成り立ち、また宇治茶も茶道文化があつて栄え発展してきた。</p> <p><u>「宇治茶生産の景観」は、日本の中心地として発展してきた京都文化の一側面としての日本茶の歴史・文化を物語る顕著な見本である。</u></p>